どんぐりと山猫

ようこそ　宮澤賢治の
どんぐりと山猫の世界へ

作品アピール

山奥の草地の話。一郎に、あ来たと大喜びです。一郎は山猫から手紙が来たと大喜びです。そして次の日、一郎は山と、そこに山猫があらわれました。一郎は山猫の場所が分からるおかしな手紙がきます。まして次の日、一郎は山と、そこに山猫があらわれました。一郎は山猫の場所が分からうからきてくれ山猫よりたっは山猫の場所が分からなかったので最初にさい判が始まりました。

あらすじ

ある土曜日の夕なおそ南と行ってもいいのまどんどん進んで面です。

作者がこの作品で伝えたかったこと

この作品で宮澤賢治が伝えたかったことと思うのは、人間は動物にたよっていて、動物は人間にたよって生きていたこと。

心に残った場面

山猫がどんぐりにどなった場面

発行　12月12日(火)

感想

筆者が伝えようとするものを読者側が読みとる事はとても難しいと感じています。

しかし興味を引かれる物語のようです。

山猫

さい判をすくわれた人

一郎に手紙を書いた人

一郎はおかしいなと思いながらも少し行ってみようと思いそのままらせた人

一郎です。

進んでいきのこけ有りす